

寄居町の今とこれから 一般質問

6月定例会の一般質問には、9名の議員が登壇しました。
質問項目と内容(抜粋)をお知らせします。

この項目について町の考えを聞きました

まちづくり

- 寄居 PA スマートインターチェンジ (岡本議員) → P.9
- 公共施設の更新問題 (大久保幸議員) → P.10
- 中心市街地活性化法を活かしたまちづくり (峯岸議員) → P.10
- J R 用土駅舎 (津久井議員)
- 鉢形城跡公園化推進 (原口孝議員) → P.11
- あらぎとふれあいを育む町 (田母神議員) → P.12

住民サービス

- デマンド交通の取り組み (佐藤議員) → P.9
- 町の情報発信とホームページの改善 (鈴木議員) → P.12

環境

- 水道水・学校給食の放射性物質検査 (神田議員)
- エコタウンな暮らし (原口孝議員)

子ども

- 児童の交通安全対策 (神田議員) → P.8
- 通学路の安全強化対策 (鈴木議員)

農業・観光

- 農産物加工施設建設事業 (津久井議員)
- ドイツへの視察研修 (津久井議員)

その他

- 役場庁舎1階の火災発生 (岡本議員)
- 男女共同参画の取り組み (佐藤議員)
- ホンダ寄居新工場生産第1号車の購入・展示等 (大久保幸議員)
- 5月12日の寄居町庁舎火災 (津久井議員) → P.11

※1人1項目を要約して掲載。全文は会議録を「らんく」で閲覧。会議録は印刷でき次第、町立図書館で読むことができます。



議員も視察した胎内市のデマンドタクシー



寄居PAスマートIC付近の鳥瞰図



子どもたちに安全な通学路を

次のページは「公共施設・中心市街地・庁舎の火災・鉢形城跡整備」に関する一般質問

テスト運行に向けた進捗状況は

答弁→ アンケート調査や町民説明会を実施します



佐藤理美 議員

問 高齢化社会を迎えた中で、移動手段として「足の確保」が重要であることから平成19年6月議会以降、何度かご提案させていただいた経緯があります。本年11月をめぐり、テスト運行が開始されます。そこでテスト運行に向けた進捗状況等について伺います。

答 寄居町地域公共交通活性化協議会では、これまで2回にわたり協議が行われています。本年4月に開催された協議会では、町民の移動実態やニーズを把握するためのアンケート調査を実施することやテスト運行を周知するため、町民への説明会を実施すること等を決定しました。

問 運行車両に広告等、掲載されるお考えはあるか伺います。

答 現段階においては、運行車両のタイプが決定していませんので、決定した段階で必要性等を検討していきたいと考えます。

デマンド交通システムの導入は

問 寄居駅南口整備、市街地活性化を踏まえた「デマンド交通システム」の導入について伺います。

答 今後、公共施設や銀行、各種商店等が集中する市街地を目的地として、デマンド交通システムを利用される方が増加すると考えられますので、中心市街地の活性化を踏まえたデマンド交通システムの導入に向け、今後具体的な協議を進めていきたいと考えています。

スマートIC、事業の概要は

答弁→ 事業費は約26億円です



岡本安明 議員

問 事業の概要について伺います。

答 設置場所は、関越自動車道花園インターチェンジと本庄児玉インターチェンジのほぼ中間に当たる寄居パーキングエリアで、連結位置は、上りが深谷市道、下りが寄居町道です。形式はパーキングエリア接続型インターチェンジで、運用形態は全車種対応(24時間)です。利用形態は、上下線とも出入り可能な一旦停止型フルインターで、利用対象は、ETC車載器を搭載した全車種です。概算事業費は約26億円です。

スマートIC設置による効果は

問 スマートインターチェンジ設置により、どのような効果が期待できるのか。また、町の周辺整備計画について伺います。

答 寄居パーキングエリア周辺には多くの企業が進出しており、既存工場群からの物流効率化並びに企業進出の促進が期待できます。

また、高速道路へのアクセス性を生かした企業誘致により、地域経済の活性化と雇用強化が期待できます。スマートインターチェンジ設置に伴い、高速道路へのアクセス性が高まることから、地域住民等の交通の利便性が向上します。

さらに、交通車両の分散が図られ、インターチェンジ周辺や幹線道路等の渋滞緩和が期待されます。周辺整備の計画については、速やかに検討を行い、その検討結果により、農振除外等も含め、土地利用の見直しを図っていきたいと考えています。

スマートIC デマンド交通

☑デマンド交通システム…利用者の要求(デマンド)に応じ、同じ方向に向かう人が乗り合わせ、戸口から目的地まで運行するバスとタクシーの中間に位置するような交通システム。

児童生徒の通学路における交通安全対策は

答弁→ 町内小中学校の通学路緊急点検を行いました



神田 崇 議員

問 全国各地で通学中の子どもたちが犠牲になる痛ましい交通事故が多発しています。運転手の過失が原因である一方で、通学路自体の道幅や、抜け道利用による交通量の多さが指摘されていた事例も明らかになっています。寄居町内の通学路において、危険箇所と認識される場所の有無を伺います。

答 全国で起きた事故を受け、町内の小中学校の通学路緊急点検を行い、その結果、26カ所の危険箇所が報告されました。

問 具体的に、どのような状況が確認されたのか伺います。

答 道幅の狭さ、ガードレールが必要と思われる箇所、見通しの悪い地点、停止線や横断歩道の塗装が薄くなった地点が確認されました。

問 それらの地点は既に是正の対策が講じられたのか伺います。

答 今年度は、用土小学校南側の歩道の整備と、寄居小学校西側の秩父鉄道の踏切付近の路側帯塗装を行います。その他の箇所も必要に応じ、順次整備を行います。

自転車通学の運転マナー教育は

問 自転車通学をする生徒の運転マナーの悪さを指摘する声を多く聞きますが、どのような教育をするのか伺います。

答 専門のスタントマンを使い、実際の事故を目の当たりにさせ(スケアード・ストレート教育技法☑)事故の恐怖から交通ルールの大切さを学ばせる教育を、町内の中学生を対象に行っています。

☑スケアード・ストレート教育技法…怖い思い、ヒヤッとする体験を通じて、社会通念上望ましくない行為を自覚的に行わせないようにする教育技法。交通安全教育に適用し、スタントマンによる仮想交通事故の見学で、ヒヤリ、ハッとを体験させ、交通安全意識の醸成と高揚を図っています。